

M. Y. 英語英文学科・3年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

留学が決定してから、特に力を入れ始めたことはありませんが、普段からネイティブの方々と英語で話す機会を充実させたり、英字新聞を読んだり、BBCなどを iPod に入れて聞いたりしていました。TOEFL が終わり、それまで目標点数獲得に集中していたためにできなかったこと、例えば興味のある英文学を読むことや洋画の鑑賞などを通じて、少しリラックスしながら英語を学んだり、哲学の勉強など英語以外にも自分の知識の幅を広げるように努めていました。

② 語学研修期間

語学研修中は、とにかくアメリカの生活習慣に慣れることに専念しました。この期間はアメリカ留学をする仲間全員が一緒なので、ホームシックにかかることなく、正規授業に向けての準備ができました。また、Chatham University の方で色々と私たちのためにイベントを組んでくださり、週末には Pittsburgh の観光をしたり、ショッピングに出かけたりすることもありました。正規授業とは異なり、ACE 期間中は留学生として扱われていた分、課題や授業内容はそれほど過酷なものではなかったので、授業とは別に、図書館で本を借りて読んだり、正規授業で取りたい科目の基礎的な知識を充実させることにも時間を使うことができました。

③ 正規科目履修期間

・履修科目

私は宗教学、哲学、文学に興味があるので、なるべくそれらに関係している科目を取得しました。どのような科目を取るかは、日本で SBC のカタログをみて大体は絞っていましたが、私の留学年次のもではなかったので、実際に大学で登録する際に開講されていなかったり、他に興味深い科目があったりし、多少の変更はありましたが、International Studies の方や Advisor の先生と相談しつつ、自分の興味のある科目を選んでいきました。秋学期には、Public Speaking, Good and Evil(religion), Writing Across Worlds(English)という三つの科目を軸に、Drawing と乗馬の授業を加え、春学期には、より高度なレベルから Forbidden Love(English), Buddhism(Religion)を選び、Survey of Art History, Etching を加えました。

・授業、レポート、定期試験

授業ごとに、そのクラスでは一体何に重点を置くのかが分けられています。(例えば writing, oral 等) そのため、大体どのフィールドにその科目が属しているかで、授業体系は決められているのですが、それに関わらず、文学の授業では主にディスカッション形式、

宗教学や Art History の授業では主にレクチャーとディスカッションの混合の形式が取られていたように思います。

私の場合、主にレポートは毎週のように提出していた記憶があります。それほど長くはないレポートですが、毎週末にその週で学んだことについての問題を答える復習型のものと、テキストを読んで疑問に思ったことなどをまとめたり、それを考察したりする予習型のものがありました。

定期試験は、授業によって様々です。Public Speaking では最後に授業内で期末試験を受けましたが、私が取った授業のほとんどは Take-Home のエッセイ形式でした。Take-Home と言っても、例えば Good and Evil の試験は時間をかけて問題の回答を論理的にエッセイにまとめることを求められるだけでしたが、Buddhism のクラスでは、論理立てられた回答に加えて、三時間の制限時間を課せられました。日本の大学の様に必ずしも指定の教室に行き、監視官の見張りの中で解くわけではありませんが、ほとんどの学生は監視外の環境におかれても、そういったルールを厳守していたように思います。

④ クラブ、課外活動、ボランティア活動

特にこれといったクラブや活動に参加する機会はありませんでした。

⑤ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について（寮・ホームステイの決定方法、設備、イベント紹介など）

語学研修中は日本人の友達とシェアでしたが、正規科目履修期間はアメリカの学生と寮の部屋でシェアしていました。最初にルームメイトだった子が体調不良で休学することになったので、10 月頃に新しいルームメイトに変わりましたが、二人とも私を褒めて留学生扱いせず、普通の友達として接してくれました。週末に一緒に買い物に出かけたり、SBC のことやアメリカのこと等を教えてくれたり、また私が日本やアジアのことについて教えたりと、共有する時間も大切にする一方で、友達を部屋に連れてくる時は事前に知らせることや、相手の就寝中はデスクライトに切り替えたり、ドアを静かに閉めたりと、お互いを気遣い、プライベートを確保しあう様にしていました。生活の基本になる場所がとても居心地のいいものになったのは、彼女らのお陰だと思っています。

また、SBC は留学生が少ないので、寮のひとつのフロアが International Hall と呼ばれ、ここに全ての Visiting Students 計 9 名がアメリカの学生とルームシェアをしたり、一人で部屋を持ったりしています。International Hall のメインイベントである、毎月各国の伝統的な料理や映画、音楽などを紹介する International Night は、毎回が大成功で、留学生同士で多文化を学びあえる、大変貴重な機会でした。

⑥ 長期休暇の過ごし方

夏休暇約二週間、サンクスギビング一週間、冬休暇約一ヶ月、春休暇一週間の合計四つの長期休暇がありました。夏休暇は、Chatham University から SBC に向かうまでに Boston

と NY を訪れ、サンクスギビングではアメリカの友達の自宅で数日過ごしたあとに California と Las Vegas に友達に会いに行きました。冬休暇には、ワシントンに住む元ルームメイトと再会し、共にクリスマスを過ごしてから、イギリスに飛び、Warwick University に留学していた友達と再会しました。その後、二人のフランス人の友達の家でお世話になり、パリを堪能しました。最後の長期休暇となった春休暇ですが、休暇後の課題や試験の多さを考え、休暇の初めに NY に三日間滞在した後は、大学で他の留学生と共に過ごしました。三日間だけでしたが、NY では部屋をシェアした三人のドイツ人の女の子と仲良くなったり、大学に残っていた時も、他の留学生の友達と料理を作りあったり、Friendship Family の方々の気遣いで、晩御飯に招待して頂いたり、隣の Radolph College のイベントに行ったりと、充実した休暇となりました。

⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み

就職希望ということもあり、一切何もしませんでした。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

ルームメイトや友達とお喋りしたり、笑いあったり、時には討論したり、そんな何気ない日常がとても貴重なものであったと思っています。特に、SBC に来て間もない頃、週末に Shakespeare Trip で夜遅くに帰ってきた私を、ルームメイトがずっと待っていてくれ、日本食レストランと一緒にご飯食べに行かない？と誘ってくれた事は忘れられない思い出です。私がずっと日本食が恋しいと言っていたのを覚えていてくれ、おいしい日本食レストランを探していてくれていたらしく、日本食が食べられるということよりも、彼女の優しさが心に沁みました。

また、秋学期で一番つらかった文学の授業も思い出に残っています。努力してもなかなか良い評価を貰えず、どうしたらいいのかわからない時期もありましたが、友達が励ましてくれたり、最後の Research Paper に基づいた Presentation が終わったときには、クラスメイト全員が拍手してくれたり、またその Research Paper を教授が気に入って下さり、大学の English Journal に掲載されたりと、地道な積み重ねが最後に結果に結びついたのは大変嬉しかったです。その教授とも、その後研究室で話をする機会が何度かありましたが、会う度に英語力が伸びていると仰って下さった時の、教授の温かい笑顔は忘れられません。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

先に述べた文学の授業がなかなか軌道に乗らなかった時期は、やはりその授業に出席することが憂鬱でした。Oral 重視の授業だったため、授業での積極的な発言はもちろん、グループで先生の代わりに授業をリードしたり、一人で行うプレゼンテーションもありました。どのクラスでもそうですが、SBC では留学生だからという理由で例外的な評価をされ

ることは一切ありません。積極的な発言がなければ注意を受けますし、エッセイでも内容が良くても、構成や文法にミスがあれば評価は下がります。特にこの文学の授業の教授は wording に厳しく、何度も Writing Center に持っていき色々なチューターと念入りに確認した essay も、「内容は A、構成が C、よって B」という評価を受けました。自分の英語力がより高いものであれば、評価は異なったものになっていたと思うと、やりきれない思いに駆られました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

留学前から、パジャマのまま授業に来る学生が多いことや、基本的な生活の違いなどは、耳にする機会が多かったのもそれほど驚くことはありませんでした。しかし、政治的な認識や歴史認識のずれにはカルチャーショックを受けました。全世界が、アメリカの大統領選に注目するなど、アメリカの動向を国民レベルで気にかけていますが、それに比べてアメリカでは、国際情勢に対して切羽詰った関心を持っている人が少ないです。例えば日本では、アメリカの一挙手一投足で国が揺れ動きますが、アメリカからしてみれば、日本は全世界の一国でしかなく、日本の首相が何度も変わったことなど、ほとんどの人が知る由もありません。日本とアメリカでは互いへの関心に差異があることは、日本にいるときから頭では理解していましたが、アメリカで過ごし、そのことを肌で感じました。

また、食文化については、一般的にジャンクフードだらけという印象があると思いますが、実際にそれは間違いではないのですが、ベジタリアンやヴィーガン、それに食物アレルギーを持つ方々に対する食品の豊富さは日本に勝るものがあると思います。値段も特別に高いと言うわけではありません。私のルームメイトはグルテンに対してのアレルギーがあったのですが、ほとんどのものはグルテンフリーの代用食品で事足りていたようですし、食堂でも対応してくださいます。私はアトピー性皮膚炎なので、油と白砂糖の摂取は避けたいのですが、デザートには sugar free のものも出されるので、有難かったです。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

Sweet Briar College は、貴女の人生の一年間を絶対に無駄にはしない保障のある大学です。学生思いの先生方、勉強熱心な学生たち、そして素晴らしい環境の下で留学生活を送ることができます。また、留学生の数が少ないことも魅力のひとつです。毎年合計 15 人程度の留学生、日本に至っては同志社女子大学としか提携を結んでいませんので、ほとんどの授業ではアメリカ人の学生ばかりに混じることになります。このように言うと、留学生に対しての理解があるのか不安になる方もいらっしゃると思いますが、逆に留学生が少ないと言うことで、International Studies の方々は、大多数のアメリカ人を目の前にして私たちがホームシックにかからないように、全力を尽くしてくださいます。初めに行われ

た留学生のミーティングでも、アジア人留学生に対して、毎食ご飯を食べているか、パンでも大丈夫か等ということまで確認を取って下さったり、遠慮がちと思われやすい日本人の私達に、ルームメイトに対して不快な思いをした際の対処法なども丁寧に教えてくださり、信頼できるサポートのお陰で、当初抱いていた不安が消え去ったことを覚えています。また、Friendship Family といって、Sweet Briar に関わる人々の家族が、私たちを出迎えてくださいます。原則は各留学生に一家族ですが、仲良くなった留学生の友達 Friendship Family のお宅と一緒に夕ご飯をご馳走になったり、買い物に連れて行ってもらったりと、どの方も全ての留学生を快くサポートして下さいます。確かに最初は共通した文化を持っている人の少なさに辛い思いをすることもあるかもしれませんが、もちろん、日本人留学生の数が少ないということは、それだけ英語を喋る機会が増えるということでもありますし、留学生が少ないからこそその利点がたくさんあります。留学生というマイノリティーに属しているというネガティブな発想ではなく、この大学で学べることの喜びが勝ってくるようになるのは遅くありません。

また、Sweet Briar College は独自の村のような大学で、特有の伝統や文化をたくさん持っています。この大学は、車なしでは必要最低限のものを買いに行くことも不可能ですし、ましてショッピングを楽しむなんていうことはもってのほかです。そのため、この大学内だけであっても学生が楽しめるようにと、様々なイベントや伝統が生み出されました。全ての新入生、転入生、留学生に最初に課され、満点を取るまで再試験が続く Honor Code のテストを筆頭に、食堂の真ん中の扉は四回生しか通れないなど、日本の大学では考えられない(アメリカの大学でも考えられない…)様な、興味深い伝統で溢れています。

今、留学生生活を振り返ってみて、特筆するような悪い点は見当たりません。確かに一年間を通して、不満に思うことも、納得がいかないことも度々あったように思いますが、思い出すことのできないような細かい点のみだったと思います。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの (パソコン持参の有無も含めて)

ラップトップ、常備薬は最低限の必需品として、持って行くのをお勧めします。パソコンは、急な故障にも対応できるようにできるだけ情報を頭に入れておくか、説明書等を持参したほうがいいかもしれません。私の場合、留学中にパソコンがウィルスに感染し、大学の専門家に修理を頼んだのですが、日本語なので対応できないということでした。どうにか自分で応急処置し、再度使えるようになったのですが、それまでの期間は大学のパソコンの使用を余儀なくされました。

また、自分の体質と留学先の気候などといった特徴を事前に見直すことも大切です。私の留学先は日本よりも乾燥している気候に加え、常にどこでもエアコンがかかっていることが多かったので、喉の弱い私には喉の保湿をしてくれる日本製のマスクとうがい薬は必須でした。その他のものは、大抵アメリカで購入することができますし、どうしても日本

でないと手に入らないもの、例えば日本食や基礎化粧品、日本で使っていたテキストなどは、必要な時に家族に頼んで郵送してもらっていました。

③ 語学力の向上等、留学の成果

一日一日少しずつの成長の積み重ねなので、一概に自ら成長を実感することはとても困難です。実際、授業も回数を重ねるごとに並行して難度も上がっていきますし、また TOEFL や TOEIC といったテストも留学期間中は受けなかったもので、明確に成果が目に見えて出てきたことはほとんどありません。しかし、冬休暇中に再会したルームメイトが、私の英語が上達したと褒めてくれたことがありました。彼女に言われるまで気がつかなかったのですが、確かに彼女が早口に喋るのをほとんど聞き取れるようになり、また、日本語と同じように会話を楽しめている自分がいることに気がつきました。

成績優秀者に選ばれ、Dean's list に名前が載ったことも、目に見える成果の一つかもしれませんが。留学生ではフランスの友達と私だけだったので、そのリストに掲載された自分の名前を見たときは、留学してから初めて自分を褒めてあげることができました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

協定留学は、決して簡単に手に入るものではありません。自分の突発的な思いつきで実現するものではなく、家族を初めとする、周りの方々の理解や金銭面、一年間同志社女子大学で学ぶことを諦めないといけませんし、まず住み慣れた日本を離れないといけません。もちろん、TOEFL で目標点数を獲得するまでの道のりも、決して平坦なものではないと思います。留学の夢を掴んだら掴んだで、留学先で待っているのは、それまで以上に課される宿題の山です。それでも、私は一年間の留学生生活を終えた今、自分が協定留学という選択肢を選んだことは正解だったと自負していますし、また機会があれば海外で学んでみたいとも思っています。この私の現在の気持ちが、協定留学というものの素晴らしさを表しているのではないのでしょうか。

確かに、沢山の試練を前に不安になることもあると思いますし、途方に暮れることもあるだろうと思います。でもそれは、成功を得るための準備期間です。悩みが深いほど、後からついてくる喜びや充実感は間違いなく大きいです。ご家族や友達、また国際交流センターのスタッフの皆様、先生方など、貴女の留学を理解し応援して下さる方々に対する感謝の気持ちを忘れずに、協定留学を実りのあるものとして下さいね。応援しています。

E. M. 英語英文学科・4 年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

ゼミを聴講していたため週一回程度は大学に通いながら、ビザの申請手続き、健康診断、帰国してからの教育実習の下準備などをしていました。英語の勉強としては、小説を英語で読んだり、その小説のリーディングを英語で聞いたり、無理の無いペースで過ごしていました。

② 語学研修期間

(英語圏 : ESL, Academic Skills Study など、ソウル : 韓国語集中講座、ドイツ : ドイツ語集中講座)

Chatham での ESL は同女生 6 人と京女生 2 人の計 8 人で受けました。ESL が始まったばかりの頃は、それまでの異なる環境にいることへのストレスなどを感じていましたが、すぐに慣れることができました。授業ではビジネスやアート、時事問題など様々なテーマを扱い、プレゼンやディベートも行いました。Writing の授業では Creative Writing の課題が多かったのですが、最後には 5 ページ以上の Research Paper を書いて、それについてのプレゼンを行いました。授業はゆっくりとしたペースで進み、宿題もそれほど多くありませんでしたが、個人的には早く正規の授業に入って自分の興味のある分野の勉強がしたいという思いがあって、なかなかモチベーションを上げるのが難しかったです。

また、英語力が思うように伸びない焦りと不安を感じたり、自分の弱みなどが見えてきたりして、悶々と考え込むこともよくありましたが、その度に自分を見つめなおす良いきっかけになりました。悔しい思いをしながら頑張れる環境にいること自体が、とても貴重な体験になったと思います。

③ 正規科目履修期間

・履修科目 (決定までのプロセス、具体的に履修した科目名とその内容 (科目ごとに 100 字以内程度))

・授業、レポート、定期試験

Fall Semester

ARTH 115 Survey of Art History

テキストに沿いながら、様々な地域、時代におけるアートについて学び、週一回、その週に学んだ項目についてのジャーナルを提出しました。中間と期末に持ち帰り式の Essay Exam があり、この二つの間に、Formal Analysis Paper が一つありました。

ENGL 110 Writing Across Worlds

履修するつもりだった ENGL の初級レベルの授業が定員オーバーで、他の授業を見つけないといけなくなり、最終的に履修することになったのがこの現代文学の授業です。週二回の授業で、毎回小説を 60~70 ページ読み、レスポンスを書いてくるという宿題がありました。またオーラル重視の授業だったため、授業中はほぼディスカッション形式で、Reading、Listening、Speaking、Writing のすべての点において、一番大変だった授業の一つでした。この授業でも中間、期末に Paper があり、それとは別に Research Paper、それに基づいたプレゼンがありました。

MUSC 181 Applied Piano

ピアニストでもある教授の週一回のレッスンはとても内容が濃く、充実していました。学期末にはテストとして教授たちの前で演奏する機会が全員に与えられますが、私は他の数人の学生たち (Voice 履修者を含む) と Student Recital に参加させてもらえました。

MUSC 245 Concert Choir

週 2 回の練習で、大学のクリスマス礼拝などの行事で演奏を披露する機会がありました。また、オーディションで選ばれた数人の学生は、冬休み中にロンドンでの New Year Concert にも参加していました。

THTR 102 Public Speaking

Speaking 力を上達させるために履修しました。週 2 回の授業で、計 6 回の異なる種類のスピーチがあり、各スピーチの前に数回の講義でポイントの説明がされました。テストは一回で、期末テストとして、授業期間内に行われました。

Spring Semester

ENGL 106 Intro to Creative Writing

Poem と Fiction を扱い、授業で詩や短編・長編小説を読み、ディスカッションをしながら自分たちでも Poem と Short Story を書きました。小説家の教授のアドバイスや、クラスメイトの作品、批評からはとても学ぶものが多く、私にとっては一番刺激と影響を受けた授業になりました。

ENGL 124 Myth, Legend & their Retelling

日本にいたときから受けたいと思っていた授業で、ギリシャ神話、メソポタミア神話など様々な種類のテキストを読み授業でディスカッションをしました。課題は学期を通して 1 ページ程度の Response Paper が 5 回と、4 ページ、5 ページの Paper がそれぞれ 1 回、テストが 2 回でした。

MUSC 181 Applied Piano

Fall Semester と同様。

MUSC 303 Recital

学期末にソロのリサイタルをさせていただくことになり、履修することになった授業

です。内容は Applied Piano と同じですが、レッスンを週 2 回していただけるようになり、本番に向けて集中して練習しました。

THTR 104 Intro to the Theatre

演劇はどのように運営され、作り上げられていくのかということ学びました。課題は中間、期末テストの他に、演劇の台本を読んで答えるクイズが 2 回、期末にペアを組んでやる Acting Project がありました。

④ クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラブには時間に余裕が無く所属しませんでした。Shakespeare の演劇を見に行く日帰りのトリップが年間 3 回あり、そのうち 2 回に参加しました。他にもイベントを企画するクラブがありロッククライミングやスキーなどのイベントがありました。

⑤ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について（寮・ホームステイの決定方法、設備、イベント紹介など）

ESL 中は日本人 1 人とアメリカ人 1 人の計 3 人でルームシェアをしていました。ブラケットやランプ、扇風機などは貸してもらえたので、比較的快適でしたが、気温の変化が激しく、夏でも夜になるとかなり寒くなるがありました。

SBC では Int'l のホールに入り、アメリカ人のルームメイトと 2 人で生活していました。各階にあるバスルームにはシャワーの個室とトイレが各 4 つあり、新しくきれいでした。

⑥ 長期休暇の過ごし方

長期休暇は旅行する絶好のチャンスです。予定を立てる手間とお金がかかりますが、自分で飛行機やホテルを予約したり、いろんな場所でいろいろなことを学んだり、旅行中のトラブルを自分の力で解決したりと、貴重な経験がたくさんできました。

私が留学中に滞在したのは、ナッシュビル（ルームメイトの家）、ニューオーリンズ、ニューヨーク、オタワ（親戚の家）、ロンドン、パリ（郊外に SBC での友達の家があったので）、サンフランシスコです。

⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

毎日が刺激と新しい発見の連続で、普通に授業を受け、課題に追われ、友達と食事をしながら過ごした一日一日がとても大切な思い出です。この一年で得た友達、尊敬する先生方との出会いは私にとってとても大きな財産になりました。また、ピアノのリサイタルも、先生を始めたくさんの方に協力してもらい、見に来ていただいて、一生の思い出になりました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

ESL 中の、英語がなかなか上達しない、勉強したい分野の勉強ができない、うまくその環境を楽しむことができないといったストレスを感じていた頃が一番つらかったです。SBC での授業では、内容が理解できないことも多々あり課題も多かったです。先生に質問に行けばその度にちゃんとサポートしてくださいましたし、好きなことを勉強していたので、苦痛ではありませんでした。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

バスが時間通りに来ないことです。長距離バスの場合は本当に困りました。それと他の留学生の友達を見ていて感じたのは、ヨーロッパ出身の人たちは不満や批判を気にせずどんどん言うことです。私は基本的に物事に対してあまり不満を感じない性格なのですが、きちんと物事を判断して、主張するべきところはしなければならぬなと思いました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は、たくさんの素晴らしい人たちに出会い勉強の面でもそれ以外でも刺激を受け、視野が広がったこと。悪かった点は、SBC のキャンパスが孤立した場所にあっただけのためほとんど外出できず、また私の場合毎日課題に負われて、あまり「アメリカの大学生」らしい経験ができなかったことです。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコンは Paper を書いたり、日本との連絡をとったりするのに必要だと思います。キャンパス内にもパソコンはたくさん設置されていますが、やはり自分の使い慣れたものが一番でした。ウィルス対策のソフト、また万が一故障したときのために取り扱い説明書もあると良いと思います。その他は常備薬、国際キャッシュカードを日本から持って行って役に立ちました。旅行中など、まとまった現金が必要になることがあります。

③ 語学力の向上等、留学の成果

4 技能とも最後まで苦戦しましたが、会話や文章で前は使っていなかったボキャブラリーが使えるようになったと感じました。また自分のことは自分で責任を持たなければいけない環境にいたことで、トラブルにも英語で対処する力がついたと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私はずっと留学への憧れは持っていましたが、3 回生になって TOEFL の講座を受けるまで、自分が協定大学留学をするとは思っていませんでした。しかし、憧れているだけでは永遠に実現しないと思い、本気で留学を目指して頑張った結果、こんなにも貴重な経験をすることができました。留学生活は確かに大変で、苦しいこともありますが、それらすべてが自分を鍛えてくれたと思います。今少しでも留学に興味を持っているの

なら、何かひとつ行動を起こしてみてください。それがきっかけとなって大きな目標を達成できるかもしれません。

IV. 写真



4月の私の誕生日に、他の留学生の友達と一緒にディナーを食べたときのものです。みんなが"Happy Birthday"を歌って拍手をしてくれていたとき、それを食堂で聞いていた回りの学生の何人かが一緒に拍手してくれたのがとても嬉しかったです。

友達の一人がみんなに声をかけてくれたことや、それでみんなが集まってくれたことが凄く嬉しくて、思い出に残る誕生日になりました。

Spring Semesterの終わりが近づいて来た頃に、アラビア語のインストラクターをしていた子が、他の留学生や友達に、母国のチュニジア料理を作ってくれたときの写真です。パーティーも後半で人数がだいぶ減っていますが、この後音楽をかけながらみんなで歌って踊って大盛り上がりでした。

